

## 第5節 企業×学生交流会の開催

### 1. 大阪府消費者教育学生リーダー会主催による交流会の開催

大学生間ネットワークを形成促進するために、昨年度に引き続き、企業×学生交流会を開催した。交流会を開催するにあたっては、学生の主体的な活動を引き出し、リーダーの自覚をもって交流会を実施するために、リーダー会が交流会の企画・準備・運営を行った。企画・準備・運営にあたっては、基本的に2期生を中心に行い、1期生は2期生の支援をすることで、交流会を2期生の育成の機会とした。そのため、事前打合せには、できる限り2期生が同席して会場下見を兼ねて最後の打合せを行った。

一方、持続可能な社会を作る上で鍵を握るのは、消費者であり、企業である。近年企業では消費者や社会、地球環境に配慮した活動を軸に展開する企業が増えている。そこで、交流会のもう1つの目的として、消費者教育のステークホルダーの一方の大きな主体である「企業」とともに、大学生と企業との協働により「考えて行動する自立した消費者育成」を目指した。

今年度の交流会では、共に考えるだけにとどまることなく、何か成果を形にすることを目指し、企業と学生が共に考えたことを1つでも具体的な成果として形にする内容を盛り込むこととした。

交流会の概要は、以下の通りである。

名称	企業×学生交流会
目的	<b>①学生のネットワークを広げる</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・消費者教育に係る大学生間ネットワークの形成促進を図る</li><li>・消費者教育の担い手としてのリーダーの意識を高める</li><li>・1期生が2期生を育成する場とし、2期生の成長を促す</li><li>・リーダー会の団結意識や帰属意識を高める</li><li>・リーダー会の存在をアピールする</li><li>・次の代への継承を図る</li><li>・学生の主体的な活動であることの認識を強める</li></ul>
	<b>②企業×学生との交流による考えて行動する自立した消費者育成</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・企業の消費者や社会、地球環境に配慮した活動を知る</li><li>・企業と交流する中で消費者として自分が何をすべきかを考える</li><li>・考えるだけにととまらず、何か成果を形にすることを目指す 例えば、企業と協働で実施するボランティア活動を考える、企業と連携したボランティア活動の改善点を考えプログラムをブラッシュアップするなど。</li><li>・消費者と企業がともに消費者教育について考える場とする</li></ul>
主催	大阪府消費者教育学生リーダー会

参加呼びかけ手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー会専用ホームページ及び LINE ネットワークを通じて他の学生に参加呼びかけ</li> <li>・これまで一緒に活動した企業や団体等への呼びかけ</li> </ul>
内容	<p>リーダー会の学生がプログラムを検討。◎は必須とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎消費者市民社会を理解してもらう</li> <li>○日々の行動や選択ジレンマを立ち止まって考える</li> <li>○大学生として何ができるかを考える</li> <li>◎学生の交流を図る</li> <li>◎消費者教育学生ネットワークへの登録の誘い</li> <li>◎企業との交流を図る</li> </ul> <p>※協力企業については、AICE 会員企業、消費者関連専門家会議（ACAP）会員企業、その他経済団体等へ呼びかけ協力を得る予定</p>
開催回数	3回
開催時期	<p>第1回交流会：10月1日（日）13：30～16：30</p> <p>第2回交流会：11月19日（日）13：30～16：30</p> <p>第3回交流会：1月21日（日）13：30～16：30</p>
会場	あべのハルカス 23階ハルカス大学セミナールーム

### <交流会のテーマ>

交流会では、消費の中で衣食住を大テーマとし、各回それぞれにメインテーマを設定し、プログラム作りを行った。

交流会	メインテーマ
第1回	衣
第2回	食
第3回	住

### <交流会企画の考え方>

現代社会は、持続可能な社会への変革が求められている。そのため、企業は人や社会や地球に配慮した企業活動をめざして、様々な工夫が行われている。一方で、持続可能な社会の実現のためには、消費者の協力も不可欠である。そのために、消費者は企業の配慮を学び、選択する際の視野を広げる必要がある。

そこで、本交流会では、次世代を担う学生に、人や社会や地球に配慮した企業活動を紹介する（第1部）とともに、企業と学生が実際に交流するワークショップ（第2部）では、企業の方と学生を混ぜたグループをつくり、企業の方と学生が積極的にコミュニケーションをとるワークを行い、各回のテーマについて「学生一人ひとりが自分ならどうする」を考える場とする。

本交流会を通して、学生が企業の配慮を学び、消費者として選択する際の視野を広げる必要性について実感したことを、自分自身の日々の生活での選択に活かすことを通じて、一人ひとりの小さな消費行動が大きな社会問題の課題解決につながっていることを実感できることをめざす。

#### <交流会プログラムの詳細を検討するにあたっての注意点>

- 各回のコンセプトを明確にする
- 登壇いただく企業のテーマを決める  
企業に対しては、なぜそのテーマにしたか理由を具体的に伝える
- 企業テーマを選ぶ際、できるだけ具体的に考える
- 第一部のテーマを基にして、第二部のワークショップのテーマを考える
- ワークショップでは、なぜそのテーマにしたか理由を具体的に伝える
- ワークショップでの発話（議論するテーマ）を2、3用意する
- ワークショップでは、1テーブル4名～6名、企業1名+学生を目安とする

### (1) 第1回交流会

日時	平成29年10月1日（日）13：30～16：30
テーマ	衣
担当班	栲尾晃広、飴田夏希、岡本紗也可 1期生サポート：上田ことみ、大矢萌々華
学生リーダー会ボラン ティア活動紹介	○「大阪府金融広報委員会“夏休み！親子で楽しむお金探 検隊”」の活動について ○南大阪地域等大学合同展示発表会大阪大谷大学劇団ポリ ス「寸劇で防犯を学ぼう！～特殊詐欺」の活動について
消費者を大事にする企 業活動紹介	○「履き心地、デザイン、長持ち」の裏付けとなる靴下づ くりの姿勢 タビオ株式会社 会長 越智直正氏 (公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP) 会員企業)
ワークショップ	○もったいない消耗品をなくすために ～どう伝えるかを考えよう！

<参加者数>

種類	参加者数	備考
学生	10名	○学生リーダー会学生8名（2期生6名、1期生2名） ○一般学生2名
企業	8名	ミズノ株式会社、ハウス食品株式会社、日本ハム株式会社、株式会社ルシアン、タビオ株式会社（2名）、小林製薬株式会社、株式会社消費科学研究所
大学	2名	和歌山大学
その他	5名	大阪府消費生活センター（2名）、学生支援員、事務局（2名）
合計	25名	

<第1回交流会の様子>

1. 開会式

司会 飴田夏希

初めに、司会者から注意事項等、資料の確認があった。続いて、参加企業の紹介があった。

開会では、産学人材育成機構 AICE 企画運営委員長の鯉坂恒夫（和歌山大学）先生からご挨拶があった。



## 2. 消費者教育について 栃尾晃広

今回の交流会では消費者教育について自分が消費者教育について学んだことに加えて、自分が実際にボランティア活動で行っている「劇団ポリス」の活動も消費者教育に関わるということを知り、交流会で説明をした。



## 3. (1) 消費者教育学生リーダー会活動紹介①

大矢萌々華

8月に日本銀行で行われた金融イベントの一部にリーダー会が参加したことを報告した。



## (2) 消費者教育学生リーダー会活動紹介② 栃尾晃広

2017年9月16日に堺市役所前で行われた南大阪地域等大学合同学園祭に参加したことについて説明した。合同学園祭では大阪大谷大学の防犯ボランティア団体である「劇団ポリス」が寸劇で防犯を学ぶというテーマで参加した。劇団ポリスは大阪府警の指導のもと、どのような犯罪が急増しているかということやどのような危険があるかということ、寸劇を通して子供からお年寄りにわかりやすく伝えていく団体であり、合同学園祭では近年急増している還付金詐欺やオレオレ詐欺などについて説明した。

## 4. 企業活動紹介

タビオ株式会社 会長 越智直正様

テーマは、「履き心地、デザイン、長持ち」の裏付けとなる靴下づくりの姿勢であった。会長自らのお話であった。内容は、靴下に対する日本人の意識の低さ、そして made in Japan にこだわる理由についてお話しいただいた。昔は、職人が多数おり製品一つにかかる熱量が高かった。しかし、今の日本は3足1000円など安価なものを買う傾向があり安価なら安価なりの製品であることに今の日本人は気づいていない。どれだけ、商品にカシミヤや破れにくいなど書いてあっても安いものは安いなりの製品である。日本は職人文化だったこともあり、いいものと悪いものを見極める能力がある。だからこそ、安物といいものを見極め、消費行動にあてるべきだ。また、日本製は、海外ではそれだけでブランドになる。だからこそ、どの国にも恥じないものを我々は作るべきだというお話があった。



5. ワークショップ 岡本紗也可

今回は、もったいない消耗品をなくすために、どのような消費行動をするべきか考えてもらった。  
それぞれ、学生2人企業の方2人で一つのグループを作ってワークショップを行った。最後に、グループで話し合ったことを発表しあった。



6. まとめ

消費者として、様々な考えや意見がある中で消費者の方にどのように伝えるのか、そしてどう興味を持ってもらうのが現時点での問題点であるとまとめた。

